

# 県高支部ニュース 2008. 6. 3. No. 8

兵高教組神戸県立支部 神戸市中央区北長狭通5-2-10 TEL/FAX 078-351-3252  
支部ニュース投稿先: 県高支部E-mail: ken\_koube@yahoo.co.jp 兵高教組HP: http://www.hyogo-kokyoso.com/



## 学校から「二つの貧困」をなくそう！

- 高教組第92回定期大会 -

5月31日、第92回高教組定期大会が開催されました。開会冒頭に、津川高教組中央執行委員長より、ミャンマーと四川の災害で犠牲となった多くの方々、子どもたちへの哀悼の意が述べられ、同時に支援カンパの要請がありました。

津川氏は、昨年の参院選挙以来の情勢を「日本国憲法を変えようとする動き」「構造改革路線」に国民がはっきり「No」とし、「平和と憲法」「人として生活できる生き方」を選択したと分析しました。その上で、今年度「二つの貧困」を学校からなくそうと宣言しました。

「二つの貧困」の一つは、授業料未納などで子どもたちが貧困におかれ、学ぶ機会を奪われようとしている貧困。もう一つは、教職員の貧困。県立学校の正規職員約7000名に対して、非常勤1528名、常勤1090名。非常勤は1時間2790円だが、その為の教材準備から試験の採点などで考えると十分とは言えず、また雇用の保障もない。

続く来賓挨拶のなかでも、高校進学を授業料が払えないと断念した人が増え、職安に中卒で来る人が増えている状況が述べられました。また、大学の奨学金を無利子化、卒業後年収300万円になるまでは返済猶予、東大のように全大学で年収200万円以下の家庭は授業料免除、等々、これらには1年で1900億円必要だが、米軍への思いやり予算が2000億円と考えると可能では、とのお話もありました。

### 臨時教職員の雇用確保を真剣に

高教組は教育と働く者の生活・権利を団結の力と連帯の絆で守るために結成されました。今年度の活動方針でもそのことは確認されました。とりわけ、永井書記長より、非正規雇



用労働者（学校では「臨時教職員」）の無権利状態を許さない取り組みとして、その雇用確保に真剣に取り組むことを最重点課題としてとりあげ、あわせて、昨年末組合員の雇用継続と非常勤講師の年休取得が可能となった成果も報告されました。

午前の会議終了後、「高校生平和ゼミ」への協力を訴える「高校生」  
「8月の平和大会へ兵庫から二桁の高校生で参加したい」と

### 「特色化」の押しつけで学校は混乱しただけ！

- 「研修」「介助員民間委託」「臨教雇用継続」・・・県高支部からの発言 -  
大会では、県高支部内の代議員5名からの発言がありました。



野口支部長（右写真）より、先日の支部委員会での議論（下参照）から、複数志願制の導入に際して第3学区の高校で“上から”の「特色化」が押しつけられたこと、現在第1・2学区の高校へ「はじめから特色化ありき」で議論を進めようとする管理職や学校運営の問題点が報告されました。この「特色化」推進の過程で教員が多忙化している状況も報告されました。あわせて、多忙化では、定期健康診断で「再検」「要検」とされても、病院へも行けず、かなり時間が過ぎてから行くことができても手遅れで、現職死した報告もされました。

定期検査中の「研修」への管理職の不当な妨害や介入は、神戸県立支部内だけでなく、他支部からもありました。県教委は「大いに研修してほしい」との見解を変更しておらず、一部の管理職の「開示があって・・・」などを口実として制限、介入に対しては、闘いの手を休めず、全県で取り組んでいくことが再確認されました。

神戸市内に市立の養護学校新設に際して、神戸特別支援学校と市立3校との通学区について課題が提起され、該当の保護者、教職員からの不安が報告されました。

臨時教職員の雇用継続についての過程が報告されました。分会、支部、障教組、本部の連携と協力によって組合員の生活・権利が守られたことが報告され、これを報告した「分会ニュース」は、今大会の機関誌コンクールで優秀賞を獲得し、全県からの関心が高かったことが示されました。



### 第1回支部委員会 - 「教員免許更新制」 -

5月27日、本部定期大会に向けた支部委員会が本部の津川委員長を迎えて開催されました（写真右）。定期大会での発言は上記に記載しましたが、他に「教員免許更新制」への課題と「手帳」「組合費」について提起されました。定期大会では、他支部より提起されましたので支部から改めての発言は控えました。（TM）

| 6～8月の予定 |        |                             |                 |
|---------|--------|-----------------------------|-----------------|
| 6月      | 4日（水）  | 「学習会『恒久派兵法』とは！」             | 18:00～ 総合福祉センター |
|         | 6日（金）  | 「言論・表現の自由と私たちの権利を考える兵庫のつどい」 | 18:30～ 私学会館     |
|         | 10日（火） | なくそう長時間労働！学習交流会             | 18:30～ 私学会館     |
|         | 15日（日） | 第1回分会代表者会議                  | 10:30～ 遺族会館     |
|         | 22日（日） | 『次期学習指導要領』って、学習会            | 13:30～ 中央労働センター |
| 7月      | 5日（土）  | 支部大会                        | 13:30～ 高教組会館    |
|         | 6日（日）  | 母親大会                        | 9:30～ 神戸文化ホール等  |
|         | 19日（土） | 未来の教育運動をひらく組合講座             | 10:30～ 高教組会館    |
| 8月      | 25・26日 | 高年部総会                       | 13:30～ シーパル須磨   |

# 誰がつくった？「貧困」かえよう！「格差社会」集会 格差社会よ、さようなら。憲法社会よ、こんにちは。

2008/06/01、於：勤労会館

講演：石川康宏氏（神戸女学院大学）

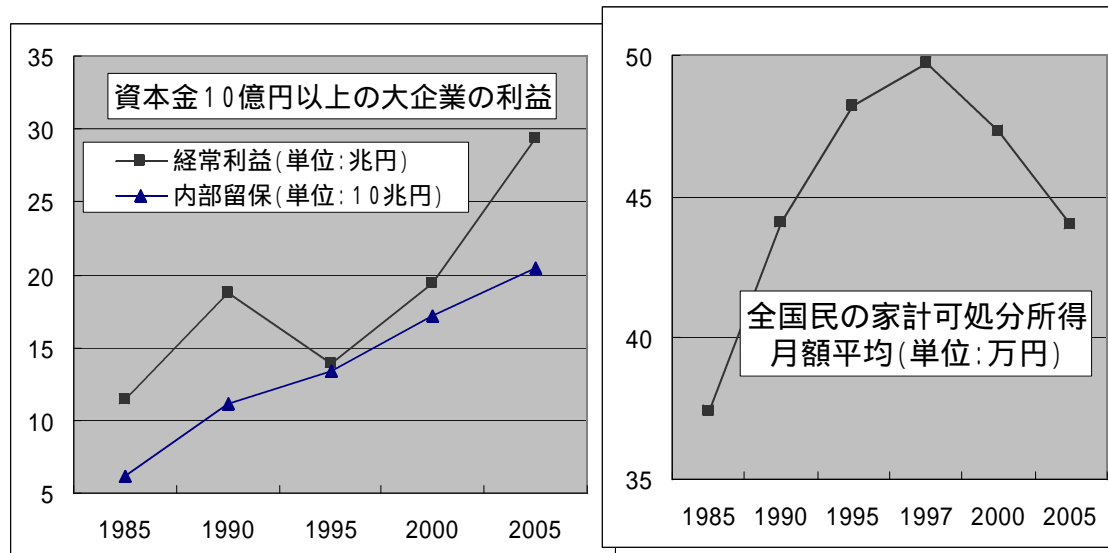
貧困問題は私たちすべての生活に関わっている。

「生活保護制度」は、決して一部の人々のための制度ではなく、私たちの課税基準、年金基準、時給基準、修学援助基準、等々の基準を決定づける役割を担っている。それを切り下げるといふことは、私たちの生活基準（賃金・納税）を切り下げる、ということだ。



この国には、国民の生活を守る意志がない。

今、日本の問題は、「格差社会」というよりも、「貧困の底が抜けてきている」という問題だ。かつての「中流」が総崩れになり、さらに貧困化が留まるところを知らない状態に陥っている。その変わり目は、1997年にあった。それまでは、「がんばって働けば、生活は楽になっていく」という希望があった。しかし、1997年以来賃金はずっと下がり続け、翌1998年から自殺者が激増、その後ずっと3万人を超え続けている。その一方で、この年を境目に大企業の経常利益は上向きになり、内部留保は今や200兆円を超えている。つまり、一握りの金持ちを除いて、総貧困化が進行している。労働者の収入が減り、しかも増税や社会保障の悪化などによって、持ち出しは増え続けている。これらは、財界やアメリカと一体化しようとする日本政府の政治的で意図的な操作による結果だ。日本政府は、国民の生存権（憲法25条）を守る意志がないのは明らかだ。



昨年の参院選から、潮目が変わった。

「闘えば社会が変えられる」という手応えが、生まれつつある。政府は、今までのように国民世論を無視することが、できなくなってきている。

いま、「憲法をいかし、憲法どおりの社会を目指そう」という運動が草の根から立ち上がってこようとしている。みんなで学習し、広い共同のもとで、政治を変えよう。(SN)

# 学校へのイチャモンのウラにあるもの

～臨時教職員のつどい 小野田教授の教育講座～

1日、第2回「教員採用試験対策、臨時教職員のつどい」が、大阪大学で『イチャモン』の研究で有名な小野田正利教授を招いて、神戸市勤労会館で開催されました。以下に簡単に紹介します。



「自子中心主義」であっても“モンスター”ではない！

今年、東京のある大学の入学式には、本人の他、親、祖父母、親戚が詰めかけるものとなりました。会場ではビデオカメラを持った父親が“良い席”を求めて競争。“我が子がかわいい、我が子が中心”＝「自子中心主義」の親が増えてきています。

一見、不当な強引な要求をしてくる親を“モンスター”と表現していますが、決してそうではなく、ほとんどが「親の立場になって」考えれば、理解できる行動が多いものです。

例えば、SARSに感染した可能性のある旅行者が大阪城を見学したニュースを聞いた保護者が、まさに大阪城へ遠足へ向かう学校へ抗議の電話をして変更を迫る…。これを「学校の立場から考えたら…」、「親の立場で考えたら…」と、結局はどちらも主観の問題で、『イチャモン』とも正当ともとれる問題で、決してどちらが正解とは言えません。

ただ、親からの強い要求で精神的に病み、病休、退職、自殺に追い込まれた教員が少なくないのも事実です。親は我が子のため（時として、学校や先生の立場を）思い、学校に連絡してくることを、学校が「構えて」「すぐに」回答をしていく時に、掛け違いが起こることも多いようです。“出されてすぐに出す”ではなく、話を聞いて時には時間を置いて進めることも大切なようです。教員も一人ではなく教員同士の横のつながりで話をしていくことも必要です。ただし、最初から恐喝などの目的の場合は別の対策が必要ですが。

## ロールプレイング…保護者の立場で学校へ“イチャモン(?)”

休憩の後、参加者（臨時教職員、大学生、正規教員）を7人程度のグループに分けて、ロールプレイングをしました。役割は、「父」「母」「子」「担任」「教頭」「校長」。設定は、中学校の卒業式終了後、保護者が子どもを連れて卒業アルバムの写真をめぐって話し合いに来る、です。各班ごと様々なことがあったようですが、私は抽選で「教頭」役。かなり「母」からお叱りを受けましたが、その気持ちも良く理解できました。

小野田先生は、保護者の集まりでも同様なことを行い教師の立場を考える、を話される



と聞きます。“イチャモン”に聞こえる要求も、立場と価値観の違いを考えると「なぜそういう要求をするのか」が理解できてきます。

『臨時教職員のつどい』ですが、その枠を超えた学習会でした。是非、参加者のみなさんの今後に繋げて欲しいものです。(TM)